



沖繩本島に敵上陸

主力は南部地区に

一部は神山島・前島を侵攻

更に十五隻撃沈破

天本宮発表 (昭和二十年四月一日、十五時)

一、沖繩本島周辺の敵は、昨三月三十一日朝、其の一部を以て神山島並に前島に、本四月一日朝来、其の主力を以て、本島南部地区に上陸を開始せり。

二、我航空部隊及水上部隊の敵艦船に対し収めたる戦果中、其の後判明せるもの次の如し。

- 撃沈 航空母艦一隻、巡洋艦二隻、駆逐艦二隻、艦種不詳三隻
- 撃沈若(もしくは)は撃破 戦艦若は巡洋艦一隻
- 逐破 戦艦若は巡洋艦一隻、駆逐艦二隻、艦種不詳二隻、輸送船一隻

我陸上部隊果敢の遊撃

去る二十三日以来、太平洋艦隊の主力を挙げて、沖繩本島附近水域に近接し、沖繩本島に砲撃を実施するとともに、去る二十五日には、一部の陸上兵力を慶良間列島に揚陸して、沖繩本島に対する本格的な上陸作戦を企図していた敵は、遂に一日午前七時頃より、その主力を以て、嘉手納西方海面に、その一部の兵力を以て、同島南岸の港川沖において、上陸を準備し、猛烈な艦砲射撃と爆撃の掩護下に、逐次攻撃を開始、午前十時頃、嘉手納南方約五キロの桑江附近以北に上陸を開始した。所在の我上陸部隊は、この敵を遊撃して水際に撃滅すべく猛攻を浴びせかけている。

大火柱廿五本

わが陸海軍特別攻撃隊は、航空機により、また水上艦艇により、沖繩本島周辺の敵艦艇に猛攻を加え、敵の上陸企図を阻止しつつあったが、物量を待(た)のむ敵は、遂に四月一日朝来、沖繩本島に上陸し来った。わが陸海軍部隊は、これに対し、所在兵力の総力を挙げて、全員特攻の斗魂に燃えて、熾烈を極める血斗を展開しているが、敵はさらに多数の輸送船団を随伴して、今後さらさら上陸を強化せんとすることは、確実である。大本宮発表の通り、戦果は続々挙がりつつあり、発表の他にもわが特攻隊の体当りによる火柱廿五、大爆発一を認めており、いよいよ壮烈を極めていく。本土決戦は、この沖繩の決戦にかかっている。陸海軍一体の総攻撃が開始されているのである。【次ページ下段に続く】

朝日新聞
一九四五年四月二日

※明らかでない誤植と一部の送り仮名は現代仮名遣いに訂正した。

現地沖縄で発行されていた新聞4月4日発行



撃沈破三十一隻

我が航空部隊は激戦中なり

大本営発表 昭和二十年四月三日十五時
沖繩本島守備部隊は敵上陸地点附近に於て、激戦中なり。我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。

三、航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。

壮烈な挺身斬込戦

早くも敵陣營を震え上らす

我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。我が航空部隊は引続き果敢なる攻撃を實施中なり。

撃沈破三十一隻

沖繩新報 一九四五年四月四日

大本営発表 昭和二十年四月三日十五時

一、沖繩本島守備部隊は敵上陸地点附近に於いて引き続き果敢なる激戦を實施中なり
二、我が航空部隊は引き続き本島周辺の敵艦船猛攻中にして其の後判明せる戦果次の如し(略)

壮烈な挺身斬込戦

早くも敵陣營を震え上らす

一日朝来沖繩本島に上陸を開始した敵は我が地上部隊の猛攻を受けつつも近海に集する艦艇群の掩護下に逐次兵力を増強し、彼我の激闘は益々壮烈の色を濃くしつつあり。(略)一日夜には各方面から壮烈な挺身切込み戦をかけて敵陣營を震え上がらせた。その戦果は未だ明らかでない。(略)

三日大本営から発表された戦果は地上および偵察機によって確認されたもののみで、この外にも確認戦果が相当多数であり、敵に与えつつある実際の損害はさらに大きなものである。

※一九四〇年の(一果一紙制度)により「沖繩朝日新聞」「沖繩日報」「琉球新報」は「沖繩新報」に統合された。沖繩戦の始まる1945年3月には、首里司令部附近の留連壕で、足ふみ式平版印刷機によってタイプライターで発行されていた。現在の沖繩第二紙は、戦後創刊され「沖繩タイムズ」、「琉球新報」とも、「戦争につながる一切を拒絶し平和を希求する」戦争のために二度とペンをとらない」との編集方針のもとに発行されている。

【前ページより】
朝日新聞一九四五年四月三日付

沖繩本島に上陸の敵

ますます兵力を増強中

撃沈破更に四十一隻

大本営発表 昭和二十年四月四日 十五時

一、敵は、四月一日十時頃より沖繩本島西南部北谷附近より、残波岬附近に亘る間に上陸し、爾後引続き兵力増強中にして、所在の我部隊は、之を激撃、激戦中なり。

二、敵艦船に対し、与えたる損害中、其の後判明せるもの次の如し。

- 撃沈/巡洋艦 四隻 輸送船 一隻
- 艦種不詳 三隻 上陸用輸送船 十六隻
- 撃沈又は撃破/航空母艦 二隻
- 戦艦 一隻(略)

敵は二個師 千四百隻

敵側の情報によれば、上陸戦に使用している敵艦船は、千四百隻の多量に上るが、これに対し、我航空部隊ならびに水上部隊は、必死必殺の猛攻を浴せ、大本営発表の如き、戦果を挙げつつある。又陸上部隊の水準における激戦においても、すでに相当の損害を与えた模様である。

特攻隊の出撃は五日から

特攻隊奮戦猛襲六回

沖繩本島周辺ならびに、琉球列島に蠢動する敵艦々船に対し、去る三十日夜間から三十一日夜間および、一日の朝にかけて、前後六回に亘り、海軍神風特別攻撃隊を先頭に、我航空部隊は出撃、敵に熾烈な攻撃を加えた。